

## 令和6年度第4回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 議事録

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議 事

#### ・議事（1）第6期みやぎ観光戦略プラン（最終案）について

宮城県経済商工観光部観光戦略課 松本観光誘客推進担当課長から資料1～4により、「第6期みやぎ観光戦略プラン（最終案）について」説明

#### 【意見等】

##### （大沼委員）

- ・資料4 観光消費額単価（4）日本人が29,000円、目標1.1倍となっているが、昨今の物価上昇を考えると少ない印象。  
目標値に物価上昇を反映したらよいのではないかと。検討をお願いしたい。

##### （観光戦略課）

- ・おっしゃる通りのところはある。ベースをR5にしているが、それからも物価が上昇しているという局面は事実であり、こちらを踏まえて検討させていただく。

##### （笠原委員）

- ・案として良くできていて素晴らしいと思う。
- ・プラン最終案①の左下、本県の観光が目指すべき姿の戦略①として、県内の隅々まで観光客が訪れるとなっているが、エリアを限定して、インスタ映えするスポットを目的に来る観光客が多く、むしろ「隅々」が主人公になっていると感じる。そういった隅々のエリアにスポットを当て、県としてピックアップして発信、連携していくことがプランに入るとよい。
- ・基本理念として、関係者全員参加型は素晴らしいと思う。難しいかもしれないが、地域住民を巻き込んでいく戦略、地域の人々が地域を好きになり自ら発信するといった観点も盛り込んでいただきたい。

##### （佐々木座長）

- ・宮城という言葉の認識が弱いと感じる。「るるぶ」のタイトルは、宮城ではなく仙台・松島。仙台・松島、蔵王・鳴子というキーワードで、そこから攻めるのはその通りだと思うが、県全体をPRするにはどうすればいいか。住民を巻き込むといったところでは、口コミをどう出してもらうかが重要と考える。

##### （嶋崎委員）

- ・東京の人は、宮城県の観光地は仙台・松島しか知らないのだと思う。蔵王は年代によって知っていると思うが、若い人は聞いたことがあるがどこにあるか、東北かさえ知らない、そういう知名度かなと思う。
- ・前回欠席したため、プランについてわからないところもあるが、宿泊観光客数がここまで伸びるのか疑問。仙南地域の令和9年の目標値は令和5年から12万人増としているが、伸びる根拠はどこにあるのかと感じる。目標値なので右肩上がりにするのは分かるが、人口が減っており、宮城に足を運ぶ人も減ることは明白。外国人で穴埋めできる根拠があるのか。宿泊税を有効活用することでこんなに伸びるのか伺いたい。

- ・議事（２）仙南圏域の施策の方向性及び取組について  
事務局から資料５、６により、圏域の宿泊者数数値目標の設定根拠及び仙南圏域の施策の方向性及び取組について、中間案からの変更点を説明

【意見等】

（村上委員）

- ・道の駅村田は村田 IC のそばにあり、各種スタンプラリーや、オリックスレンタカーとタイアップした東北の道の駅の利用券をプレゼントするプランにより道の駅を利用する方も多い。また、高速道路を一旦降りて道の駅を利用し、再度高速道路に戻った場合でも、料金が通しで計算される ETC2.0 の普及などが、誘客増加につながっていると考えられる。

（佐々木座長）

- ・レンタカーやカーシェアが進んできており、スタンプラリーと連携した誘客促進案もいただいたので、参考にさせていただければと思う。

（嶋崎委員）

- ・宮城オルレ村田コースの利用者数が順調に伸びているとのことだが、どれくらいの人々が来ているのか、ジオパークは、県内では栗駒が認定されているが、認定によりどのくらいの実績があるのか聞きたい。オルレで訪れた観光客の消費行動等を県で把握していれば、民間にも提供いただきたい。

（観光戦略課）

- ・5 コース全体では 7 万人(R6.10 月時点)。村田は一昨年オープンしたばかりで人数的には他より少ない方だが、県内 1,517 人、県外 106 人、国外 184 人の約 2,000 人弱(R5 年度計:R5.4~R6.3)が参加している。県内の方が多く、県外国外のトレッキングニーズに対応していくことが重要。
- ・コース管理にお金もかかるので、いかにお金を落としてもらうのが最終的な目標。十分な消費行動につながっているかは把握しきれていない。参加者に泊まっていただくよう、オルレコースを連携させる取り組みや、オルレから観光施設へ訪れる周遊の取組をこれから考えていく。

（大沼委員）

- ・前回の会議でオルレの人数や消費行動について質問し、説明いただいたので、前回の議事録を見ていただくとよいと思う。

（佐々木座長）

- ・前回の話ではオルレコースを 4 時間ぐらいで歩いた後は帰ってしまうという話があった。そこが課題だと思う。
- ・来年度は 11 月に世界的なイベントも行われるので、歩いて帰るだけではなく、買い物など消費行動につなげていただきたいと思う。

（事務局）

- ・ジオパーク認定後の効果に関する数字は持っていない。物販なども含めてジオパークを核にした地域振興を進めていくことになると思う。教育旅行など学びの場としての誘客も考えられる。

（大沼委員）

- ・栗原は宿泊施設が無いが、蔵王は宿泊施設があるので伸びるのではないかと考えがあるという話だと思う。

（田村委員）

- ・蔵王町のジオパークに期待している。当所では非予算的手法で POP を作成し、七ヶ宿町の蕎麦屋など、旅行者が立ち寄り施設に置かせていただき、タビナカの情報提供として、観光パンフレットに誘導する取組を行っている。

- ・道の駅村田をはじめ道の駅は年々売上げが伸びており、仙南地域は地場産品も多く活力がある地域だと思うので、引き続きご協力願う。

(佐々木座長)

- ・売上げが伸びていることは良いこと。インバウンドは東北の比率が低いので、どう改善するかが重要。宿泊の話題が出たところで、現場の状況を紹介いただきたい。

(一條委員)

- ・報道によると、年末年始のアウトバウンドは低迷する一方、インバウンドは好調  
当社の宿泊者数は微減であり、単価を上げることで売上は出しているが、人口減少の影響を感じる。宿泊者の9割弱が国内客なので、インバウンドにもっと力を入れたい。
- ・宿泊税について推進派ではないが、決まったのであるなら、宿泊税を従業員教育のために使わせていただきたいと思う。インバウンドの受け入れ態勢もしっかりしていく必要がある。差別化や効率化ではなく、従業員が手間をかけてお客様に対応するといった質を向上させていきたい。
- ・色々なものを紹介するのはいいが、情報の質を高め、「ここでしかできないもの」「お金を払ってでもやりたいもの」を発信しなければならない。

(安倍委員)

- ・一條委員と同じく、質のアップを常に考えている。いつも泊まっていたいている方から、AIなど便利な世の中になったが、おもてなしの原点を確認しに泊まりに来ているという話をいただいた。身の引き締まる、ありがたい話。満足いただいて、また来ていただくことが重要で、滞在中に次の予約を取っていただけるようおもてなしをしてきたい。
- ・インバウンド対応を得意としていないので、増やそうとはあまり思っていない。日本人のお客様を大事にしたい。日本のおもてなしというものがいかに素晴らしいのか、提唱していかなければならないと考える。
- ・インバウンドと日本人とで、消費する金額がこんなにも違うのであれば、インバウンドに力を入れなければと思うが、他県で効果的であった施策など事例を示してほしい。
- ・今年は巳年で金蛇水神社が人気を集めている。御朱印集め、お城、百名山巡りなどテーマを目的にする観光客も多いので、そういったことも踏まえてPRしていければいいのではないかと。仙南地域には酒蔵も多く、酒蔵巡りをして宿泊し、お酒と美味しい料理との組み合わせなどで魅力を感じていただけることができればと思う。

(佐々木座長)

- ・行政の政策は、色々な戦略を打ち出して各国のインバウンドを呼び込もうとするが、それを闇雲にやるだけではなくて、やはり一人、一人が来てくれる方を仙南の魅力でおもてなしすることが、みやぎ蔵王ブランドを作っていくことにつながると思う。

(佐藤委員)

- ・昨年、一昨年に比べると宿泊客が減っており、夕食時のお酒の注文がかなり減っていることを感じる。消費額を増やす方法を考えていかないと、この先辛くなってくるのではないかと思う。

- ・議事(3) 仙南圏域の施策の方向性及び取組について

【意見等】

(伊藤委員)

- ・今年度は、県の観光人材育成講座として、本校の企画デザイン科2年生を対象に講座を開いていただいている。地域に貢献するというテーマのもとに今月末発表を行う予定であり、まだまだ拙いが、どんな発想、視点になるか見ていただきたい。実務者との合同講座であり、生徒にとって、観光に携わる実務者との交流はキャリア教育としても意義があるので、忌憚のない意見をいただきたい。

(大宮委員)

- ・皆さんの各分野での取組を伺い、交通事業者としてお手伝いできることがあればと考えるが、人手不足でなかなか踏み出せない状況である。白石蔵王線の乗り合いバスにインバウンドが増えていると聞いている。移動の際、どれぐらいの人が仙南圏域で消費行動をとっているのかは把握していないが、できるだけ仙南地域で消費してもらうような仕組みを協力して作っていただければと考える。

(小野委員)

- ・丸森は猫神様を見に来る人が多い、猫好きは来るが、その先につなげられていない。猫神様の信仰が他の地点へ周遊させるきっかけになると思う。プランを見ると、他の圏域の施策の方向性でも、信仰というワードは見当たらない。丸森町にも蔵王に関する石碑が多くあり、県で取り組んでいるみやぎ蔵王三十六景など、蔵王の山岳信仰と繋がる部分があると思うので、地域が連携して進めていただければと思う。

(佐々木座長)

- ・まだ表に出ていないコンテンツはキラーコンテンツになりうる。一緒に磨き上げをしていただければと思う。

(小野寺委員)

- ・日帰り温泉施設に飲食施設が併設された「もちぶた館」を開業して20年経つが、日帰り温泉施設のみ利用する人は減っており、食事だけの利用は増えている。お金をかけるところが変わってきていると感じる。施設では、お金のやりとりは券売機としたが、食事や宴会はスタッフが対応しており、おもてなしの心を持ってやっている。人手不足が進む中、今後続けていけるのか難しいと感じる一方、労働生産性は上がらないがお客さんが求めていることに応えたいというジレンマがある。食を目的とするお客様にしっかり応えていかなければファミレスとどう違うのかと思う。自社で努力するのはもちろんだが、良いアイデアがあれば教えていただきたいと思う。
- ・施設には動物園があり、平日は地元の年配の方が多く客単価が低いが、土日は福島、山形、仙台から子供連れが多く訪れ、滞在して一日中遊ぶことができる。大人は子どもが欲しがるものを買ってあげることで、客単価が上がる。これからは観光の面でも子ども向けの目線が必要ではないかと思う。
- ・仙台からレンタカーやバスで仙南圏域を訪れる人に、宿泊してもらわなければ宿泊者数の目標には届かないのではないかと思う。地域限定のものを提供し、泊まってSNSで発信してもらい、次につなげるような手法があればと思う。来る、泊まる、他の地域も周遊することをトータルで考えないと、高い目標ではないかと思う。施設や地元のそれぞれがオールラウンド、オールみやぎで頑張っていく意識付けになればと思う。

(盛委員)

- ・一條委員から話があった通り、当社でも乗客がコロナ禍前の水準に戻ったと報道はされているが、閑散期や平日は厳しいという現状。平日は家族連れがおらず、サラリーマンもあまり利用されないので、退職者や2～3月など学校が休みになる学生をターゲットした平日のプランを作っている。
- ・地域と連携していくことが大事だと思う。観光人材の面では、当社としても観光の人材が少なく、これまで旧仙台支社で観光をやっていたが、福島、山形にも拠点を置いて、自治体や企業と直接やりとりして観光に関する企画をやり始めているところ。まずやってみることが大事で、その先に結果が見えてくると思っている。

(藤野委員)

- ・資料を読むと、文末が造成、磨き上げ、強化となっているが、皆が共有し自分事だと思ってやるのが重要。今、仙南地域は注目されているのではないかと個人的に思っている。猫神やおもてなしなど材料が揃っている。圏域を超えて、置賜や県北から来ていることを実感している。仙台市などが主催で、仙台を出発し、東北をめぐるドライブスタンプラリーの企画提案を学生から募集したが、6号線沿いの喫茶店、道の駅かくた、相馬、霊山、白石、蔵王を巡るルートに応募があった。

圏域の施策も、自分事として、どこに行きたいか、どういうことをしたいかを考え、圏域会議の場で確認することがよいのではないかと思う。

- ・角田市と道の駅かくだの取組として、スポーツ施設が隣接していることから、アメリカンフットボール大学選手権地方大会の誘致や、ここ 3 年実施しているカブミーティングというバイクのイベント、東北で初めてとなるTOYOTAタイヤのファンミーティングを開催した。イベントの開催が宿泊につながる。既存の観光資源だけでなく、信仰やイベントの開催なども考えていければと思う。

(佐々木座長)

- ・一人一人が自分事で取り組むことが重要。

- ・議事(4) その他  
なし

- 4 その他  
なし

(以上)